

# 令和 4 年度 県立石岡第二高等学校自己評価表

目指す学校像	(1) 変化するグローバル社会において活躍できる生徒を育成する学校 (2) 伝統の継承・再生とともに社会の変化に柔軟に対応し、生徒・保護者・地域社会からの期待に応える学校 (3) 普通科・生活デザイン科が相互に切磋琢磨しながら教育の質を高め、新しい価値の創造に積極的に挑戦し、社会に貢献できる生徒を育成する学校 (4) 学校、家庭、地域社会と連携・協働し、社会に開かれた創造性豊かな教育を行う学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>○生徒アンケートにおいて「先生はわかる授業を行っている」と感じた生徒の割合は、76.9%である一方、学習アプリを有効活用している生徒は、64.3%であった。また、「わかる授業を展開している」と考えている教員は 90%であり、生徒の感じ方との差がある。「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を進め、「わかる授業」を実施するとともに、「教わる」から「学ぶ」への意識の変化を求め、インプットからアウトプットへ授業内容の理解や深化を支援するアプローチの研究と実践を行う。学科併置校の強みを生かし、全教科が有機的に繋がる学びの場を創出する。</p> <p>○国公立大学合格者 1 名、学校斡旋の就職内定率 100%であった。キャリア教育の意義について、全教職員の共通認識のもとで指導を行う。入学時からの高い進路目標と意識の継続のための効果的・系統的な指導の工夫を図る。現状に即応する情報の提供と進路実現を支援できる体制を整備する。学校として一貫した進路指導を実現するため、進路行事等の運営をこれまでの学年主導から徐々に進路指導部主導にしていく。</p>	<p>①「筑翠ルネサンス」(チャレンジ・プロジェクト)の推進</p>	<p>○普通科と生活デザイン科の協働を図り、地域の課題を発見・解決し、新しい価値を創造する教育活動を展開する。          ○在学時に成人年齢に達することを踏まえ、生徒が自ら地域や社会の課題に目を向け、自身のアイデアを生かし解決策を話し合っ、学校内外へ向けて提案・実践する取組を実施する。          ○日本の伝統文化に対する生徒の理解を深め、郷土を愛し伝統文化を尊重する態度を養う。          ○自国文化や異文化の理解を深める指導の充実を図り、国際交流体験活動を定着させる。</p>	A
	<p>②豊かな心を育む教育の推進及び 18 歳成人に伴う啓発と生徒指導の充実</p>	<p>○生徒の実態を把握し、学校の課題を明確にした生徒指導体制づくりを行う。          ○「道徳」や「道徳プラス」の授業等、規範意識やモラルを高める取組を充実させる。          ○スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門家の積極的・効果的な活用と教育相談体制の強化を図る。          ○教職員自らの人権に関する認識を深め、指導力の向上を図るための研修を充実させる。          ○18 歳成人に伴う契約等のトラブル防止について啓発し未然防止を図る。</p>	B
	<p>③探究を軸とした学びのスタイル改革と ICT 教育の推進</p>	<p>○生徒が正解のない問いに臨む機会を創出し、自ら主体的に学ぶ課題解決型の学習スタイルを確立する。          ○協働学習、個別最適な学び、協働的・探究的な学び、反転学習等において、ICTを活用した教育活動を推進する。          ○学習アプリの活用を促進する。          ○異校種との連携や校内外の研修への参加を推奨し、高い専門性を持った学び続ける教員を育成する。          ○教務部や各教科と連携し、教科等横断的な授業を実践する。</p>	B

別紙様式 2 (高)

<p>○自己を大切にし、他者に配慮しながら協働して問題解決を図ることができる態度の育成が求められる。</p> <p>○生徒が自分自身の行動について見つめ、考えることのできる指導の工夫と自己指導能力を育成する。生徒一人一人の状態や特性を理解し、教育的ニーズに応じた配慮や支援を継続して行う。不登校・いじめ等の未然防止と解消に向けて、定期的な教育相談を実施する等、適切な対応に努める。</p> <p>○生徒一人一人の悩みや不安に寄り添えるようスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活用等、外部資源を含めた教育相談体制の充実をはかる。</p> <p>○昨年度から職員に毎月の勤務時間個票を配付している。各々が自身の勤務状況を定期的に把握でき有効であるが、月によっては、職員の在校等時間が多くなることもあった。今後も定時退勤日の設定や時差出勤制度の活用、会議や学習指導におけるICTの積極的な活用等、教職員の負担軽減に努める必要がある。</p>	④多様な進路希望に対応したキャリアデザインの形成	<p>○自らの意思と責任で、進路を主体的に選択する資質・能力を育成する指導の工夫を図る。</p> <p>○就業体験活動（インターンシップ）等、キャリア教育に関する実践的・体験的な活動への参加を促進する。</p> <p>○キャリア・パスポートの活用と充実を図る。</p>	B
	⑤学校行事やボランティア活動等の体験的活動の充実	<p>○教職員の支援のもと、学校行事の充実を図るための取組を推進する。</p> <p>○生徒会の主体的な活動の促進等、生徒の自治的・協働的な活動を活性化させ、シティズンシップ教育を推進する。</p> <p>○ボランティア活動などの社会奉仕体験活動への参加を促し、自己有用感の育成を図る。</p>	B
	⑥開かれた学校づくりの推進	<p>○学校公開等の実施や地域行事等への積極的な参加等により、保護者・地域社会との連携を強化する。</p> <p>○学校WEBページの充実やSNS等を活用し、積極的に学校の取組や生徒の活動を発信する。</p>	B
	⑦働き方改革の推進と職場環境の改善	<p>○定時退勤日や完全退勤時間等の取組を促進し、超過勤務時間の縮減に努める。</p> <p>○時差出勤制度を積極的に活用する。</p> <p>○部活動運営方針の徹底を図る。</p> <p>○教材等の共有や外部の教育資源の活用を推進する。</p>	B
	⑧コンプライアンスの遵守	<p>○厳正な規律と高い倫理観を保持しつつ職務に精励する。</p> <p>○教職員一人一人が全体の奉仕者であるといった公務員の原点を改めて思い起こすとともに、職務上の義務や身分上の義務について理解し、自らの行動を見つめ直す。</p> <p>○教員評価面談等及び学校コンプライアンス委員会の開催や法令遵守に向けた研修を行い、教育公務員として服務規律を遵守する意識を一層徹底する。</p>	A
三つの方針		具体的目標	
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」(グラデュエーション・ポリシー)	地域社会の産業と伝統を中心となつて支え、多様性を認め、自他ともに尊重できる人間の育成	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」(カリキュラム・ポリシー)	個別最適な学びと探究活動、様々な体験学習によって、基礎的・基本的な学力と豊かな人間性を育み、多様な進路希望を実現する	
	「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)	本校の学習や活動に好奇心をもって意欲的に参加し、自己の可能性を信じて前向きにこつこつと取り組む姿勢と、思いやりや素直さをもつ生徒	

## 別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
教務	教育課程の適切な運営と授業の充実を図る。	生徒の実態に応じ各分掌と調整しながらよりよい教育課程を作成し、「わかる授業」を展開する。	A	A ・新学習指導要領に基づいた評価方法についての研修を積極的に行う。 ・他の校務分掌と協力し学校公開の内容をより充実させる必要がある。 ・各教科で作成したシラバスをより有効的に活用できるように内容の精選を図る。	
		新学習指導要領の導入を見据え、「主体的・対話的で深い学び」を踏まえた授業を展開できるよう、研修報告の場を設けるなどの校内研修を実施する。	B		
		各学年、教科ごとのシラバスを作成し、有効活用を図る。	B		
	適切な年間計画を編成し、教育活動の円滑な実施を図る。	各分掌と連携をとりながら行事の精選を行い、バランスの取れた年間行事計画を作成する。 状況の変化に応じて柔軟に学校行事の運営を行う。	A		
		事務処理の効率化と適正な情報管理を図る。	校務支援システムによる成績管理システムを整備し、全職員が円滑に運用できるようにする。		A
			成績一覧票、通知表等の処理を円滑、確実に行う。 奨学金等に関する広報と事務処理を的確に行う。		A
	広報活動を充実させる。	学校公開の情報をインターネット等を通じて、確実に発信する。	B		
		進学フェアへの参加、中学校訪問等を行い、様々なニーズに対応した広報活動を行う。	A		
		学校案内パンフレットの内容を充実させる。	A		
	進路指導	各学年の進路指導計画に基づいた職業観・勤労観を育成し、生徒の希望進路を実現する。	1学年：進路講演会、職業人との懇談会等を通して早期から高い進路意識を育成する。		A
2学年：進路別見学会、インターンシップ、進学相談会参加等を通して個々に合った進路意識を明確化する。			A		
3学年：1・2学年で獲得した進路に対する知識・経験を基に、個々の進路を実現させる。			A		
より高い学力を養成し、大学・専門学校の進学率を高める。		土曜課外、平常課外授業等へ積極的に参加させ、より高度な学力・応用力の向上を図る。	B		
		大学・専門学校のオープンキャンパスへの積極的な参加を促すとともに、大学への進学・入試に対して早期の意識づけをする。	B		
		校外模試を積極的に活用し、生徒一人一人の学力をきちんと共有・分析し、高い志を持って進路選択ができるよう指導する。	B		
生徒指導	基本的な生活習慣を定着させる。	服装指導や生活指導を計画的・継続的に行い、生徒に自律的で責任ある生活習慣を身に付けさせる。	A	・すべての教員が一致した方向で指導にあたるよう共通理解の徹底を図る。 ・社会人としての自覚につながる啓発活動をさらに充実	
		生活習慣・しつけなどの家庭の教育力の重要性について啓発し、その向上を図る。	B		
	心の教育を充実させ、規範意識とモラルの向上を図る。	規律委員会を中心にあいさつ運動を率先して行い、礼儀や言葉遣いなどマナーを身に付けさせる。	B		

別紙様式2 (高)

		自己を大切にし、他人を尊重する心を養う。	A	B	させる。 ・規律委員による挨拶運動や行事での巡回を通して、ルール、マナーの遵守を促す。 ・規範意識の醸成について、継続して指導を進める。
	問題行動の未然防止に努める。	校内・校外の巡回指導を継続的に行う。 生徒の小さな過ちを見逃さない。	A		
	交通安全教育を推進する。	関係諸機関との連携を図り、交通講話などを実施して事故防止に努める。校外巡視指導や保護者との連携により事故及び防犯に関して確認事項の徹底を図る。	B		
	社会人としての自覚につなげる啓発活動を行なう。 地域社会からのさらなる信用を得る	18歳成人に伴う啓発活動を行い、契約トラブル等の被害防止を図る。 学校外での節度ある行動に繋げるための望ましい習慣を身に付けさせる。	B		
			A		
生徒指導 いじめ防止	未然防止に努める。	いじめ未然防止のため、生徒の規範意識を高める。	B	B	・関係機関、学年、保護者と連絡を密にとり、早期発見・早期解決に努める。 ・『生徒指導提要』の改訂にあわせ、社会環境や生徒の状況の変化を踏まえた教員の意識改革を進める。 ・学年間で共有した生徒指導の状況を、学校全体の指導体制につなげていく。
		生徒が教職員に相談しやすい関係を構築する。また、スクールカウンセラーの一層の活用を図る。	A		
		インターネットやSNSを通じて行われるいじめ防止に努めるとともに、情報モラル教育を推進する。	B		
	早期発見に努める。	生徒の発する小さなサインを見落とさず、いじめの早期発見に努める。	A		
		相談窓口を複数周知し、相談しやすい関係を構築する。	A		
	早期解消に努める。	適切にいじめの事実を確認し、被害者の心のケアをする。	B		
		加害者に対して、いじめを許さない指導を徹底する。	A		
		重大事件があった場合、速やかに調査結果を県教育委員会を通じて知事に報告する。	A		
	関係機関との連絡体制の強化に努める。	保護者と密接に連絡を取り合い、事実の掌握と早期発見・早期解決に努める。	A		
警察、児童相談所、法務局等の関係機関と連絡体制を構築し、相談することで早期解消を図る。		A			
教職員の研修を深める。	いじめや、インターネット環境等に関する研修や実践的研修を行い、いじめの対応方法の共通理解を図る。	B			
特別活動	生徒主体の自発的な生徒会活動を展開する。	生徒会役員を中心に、生徒の自主性を尊重し、新しい生活様式に応じた行事の企画・準備・運営に取り組む。	A	B	・生徒指導部との連携を強化し、校則等の見直しを推進する。 ・生徒発案の行事開催など、生徒がより輝ける場を創出していく。 ・行事の振り返りを学校生活や進路に生かせるよう実施方法を工夫していく。
		校則等を考え、議論する活動を継続し、学校生活や生徒会活動への主体的な参加を目指す。	B		
	体験活動に積極的に取り組ませる。	豊かな人間性を育むことを目指し、ボランティア活動やスキー教室等の体験的な活動に生徒が積極的に参加できるよう支援する。	A		
	教育活動としての部活動の活性化を図る。	活動の成果の掲示場所や発表の機会を増やし、生徒の部活動に対する関心やモチベーションの向上を図り、達成感や自己有用感を高める。	A		
	キャリア・パスポートの活用を促進する。	学校行事の記録にとどめず、進路行事等とも連動させることで、生徒が自己変容と自己実現に向けて活用できるよう支援する。	B		

別紙様式 2 (高)

企画開発・ICT教育推進	石岡二高としての「総合的な探究の時間」の基本的枠組みを確立する。	「総合的な探究の時間」ロードマップを作成し、体系的な指導を行う。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・探究ロードマップを完成し、探究活動の体系を具体的に示すことで、学年指導の充実に寄与する。</li> <li>・スタディサプリの活用方法に関して学校全体で共通理解を図り、各学年が一致した方向で指導を行う。</li> <li>・授業における1人1台端末の有効活用について、さらに研究を進める。</li> <li>・PR充実のため、本校ツイッターの更新頻度を増やす。</li> </ul>
		企画開発・ICT部と学年が連携し、協働して総合的な探究の時間の企画運営を行う。	B		
	ICTを活用した教育活動の一層の充実を図る。	ICT活用研修を積極的に実施し、教員のICTスキルのさらなる伸長を目指す。	A		
		学習支援アプリの活用方法について、学年に対するフォローやマネジメントを行う。	B		
		1人1台端末を前提とした授業実施を職員全体で意識し、授業での活用の機会を増やす。	B		
	チャレンジ・プロジェクトに関係する行事の円滑な企画運営を行う。	SNSを利用して生徒の活動や学校の情報を発信することで、石岡二高の魅力を外部に伝えと共、開かれた学校づくりに寄与する。	B		
		部会を定期的に開くことで学年・分掌との情報交換を密に行い、進行状況を学校全体で共有しながらプロジェクトを実施する。	A		
		外部機関との連携協力において、担当分掌としてのイニシアティブを発揮し、学年・分掌のフォローやマネジメントに努める。	A		
	保健厚生	生徒が学習するために適切な環境を整備するとともに、適正な職場環境の整備に貢献する。	安全点検・環境衛生検査を実施する。		
清掃監督の職員や整備委員と連携し、普段の清掃活動に加え、ワックス塗布や大掃除等を行い、校内美化に努める。			A		
衛生委員会と連携して、職員への健康に関する研修を推進する。			B		
心身の健康の維持・増進に努め、生徒の心の居場所を提供し安らげる環境を整備する。		保健委員、福祉委員と連携し、外部講師による性教育講話と献血を実施する。	B		
図書	生徒の自発的、主体的な学習活動を支援し、教育活動のさらなる発展に寄与する。	生活習慣を見直し、健康的な生活の維持に努める。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学習・情報センター」としての機能が発揮できるように環境装備の拡充に努める。</li> <li>・生徒が自学自習の場として常に安心して使用できるように環境を整える。</li> <li>・生徒の意欲を掘り起こし、コンクール等への参加を促す。</li> </ul>
		担任・保護者・SCと連携して生徒をチーム支援していくとともに、カウンセリングの環境を整える。	A		
		特別支援を必要とする生徒を個別に支援する体制を整える。	A		
	生徒の想像力を培い、それぞれの興味・関心や豊かな心をはぐくむ、自由な読書活動や読書指導に取り組む。	「学習・情報センター」として、学校図書館を活用した学習活動や読書活動を日々の各教科等の指導に取り入れ、生徒の思考力、判断力、表現力等を効果的に身に付けさせる。	B		
		生徒の自学自習の場として利用の促進を図るため、環境整備に努める。	A		
SDGsや民族共存など現代の諸問題に関する書籍を増やし、生徒の利用する意欲を高める。	B				
オリエンテーションや読書、マナーに関する啓発活動を行い、図書館利用を促す。	B				
教科の推薦図書や生徒の希望図書を把握し、適切で有用な選書を行う。	B				
ビブリオバトルや読書感想文コンクール等を通して、読書活動を活性化し、豊かな感性を育む。	B				

別紙様式 2 (高)

渉外	生徒の健全な発達を支える環境をつくるために、保護者・地域との相互理解・連携強化を目指す。	PTA 広報紙等で情報を効果的に発信し、保護者・学校の相互理解を深める	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支部改編や役員数の見直しについて検証し、保護者が負担感なく PTA 活動に参加できる体制整備を進める。</li> <li>・地域からの理解を得られる学校づくりへのより一層の貢献を目指す。</li> </ul>
		地域の巡回指導を継続するとともに、マナーアップ推進運動に参加・協力し、地域社会に貢献する。	B		
		支部改編や役員数の見直し等、これまでの問題改善に関する取り組みを継続し、保護者が PTA 活動に参加しやすい体制整備を図る。	A		
		学校の活性化のために、同窓会との協力体制の維持・向上を図る。	A		
家政	学科のねらいを明確にして取り組む。	2つのコース制（フードデザインコース・ヒューマンサービスコース）を取り入れることで、特色あるコースごとの授業を展開する。各コースに合わせた外部の専門家の指導を仰ぎ、より専門性を高め、職業人としての資質を育成する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コース制の充実のため校内外授業（実習）の継続と新規開拓を図る。</li> <li>・次年度実施される成果発表会（校外）に向け計画、実践を進める。</li> <li>・感染症対策のため未実施となっていたボランティア活動、校内外の奉仕活動などを再開したい。</li> <li>・授業で利用する教材の精選を図る。</li> </ul>
		課題研究（5 講座）を 2・3 学年合同の授業とすることで、学年を超えた学びの場を設ける。探究活動の成果を発表する場を設け、専門性と自己有用感を深める。また、保護者や地域住民及び近隣中学校に向けて、生活デザイン科の特色について広く発信していく。	B		
	教科と家庭クラブ活動の連携を図り、生徒主体の活発な活動を促す。	家庭クラブ活動を通して、講習会やボランティア活動、校内外の奉仕活動などへの積極的な参加を促し、社会参画や勤労への意欲を高めさせるようにする。	B		
		家庭や地域との連携を図りながら、ホームプロジェクトを実施し、発表活動を取り入れることで、探究学習の充実を図りながら研究活動を継続していく。	A		
職業人として必要な豊かな人間性を育む。	様々な体験学習や多様な教材を活用して地域に望まれる豊かな人間育成を目指す。放課後や長期休業中に課外指導を行い、基礎基本の技術を修練し、家庭科技術検定やビジネス文書実務検定の合格を目指す。	A			
第 1 学年	基本的な生活習慣を身に付けさせる。	怠惰な欠席・遅刻・早退を見逃さずに指導し、授業開始には準備を完了して待つなどの行動を徹底させ、時間を守る習慣を身に付けさせる。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻が常態化を防止するため、家庭との連携を強化する。</li> <li>・個に応じた指導の促進、また、いじめや問題行動の防止のため、生徒情報の共有に努める。</li> <li>・総探の指導において、学年全体を通しての計画・立案・検討が必要である。</li> <li>・成績上位者層への学習指導の充実を図る。</li> <li>・講演会等の後の振り返りの充実を図る。</li> </ul>
		学習課題の提出を促すとともに、未提出の生徒への指導を徹底することで学習習慣の確立を図る。	A		
	基礎学力の向上とキャリアデザインの形成を図る。	I C T の活用やアクティブラーニングを推進し、魅力のある授業づくりに励むことで、生徒一人一人が積極的、主体的に学習する姿勢を育成し、基礎学力の向上を図る。	A		
		スタディサプリ等の学習コンテンツを利用して家庭学習や課外学習を推進し、上級学校への進学を希望する生徒の学力向上を図る。	A		
	豊かな心を持った人間性のある生徒を育成する。	総合的な探究の時間や講演会等の行事において探究活動を推進し、自らの進路や生き方を主体的に構想・設定する姿勢を育成する。	B		
他者の言葉に耳を傾け、素直に話を聞く態度を育成し、他者への配慮や共感する力を養う。	B				

別紙様式 2 (高)

		挨拶を励行し、正しい言葉遣いができるように指導することで、高校生としてふさわしい振る舞いや、分別がある行動ができるようにする。	A		
		各学校行事への積極的な参加を促すことで、主体的・協働的に活動する姿勢を育成するとともに、集団への帰属意識や規範意識の確立を目指す。	A		
第 2 学年	基本的な生活習慣を身に付け、自己管理能力の伸長を目指す。	怠慢な欠席・遅刻・早退を見逃さずに指導し、授業開始には準備を完了して待つなどの行動を徹底させ、時間を守る習慣を身に付けさせる。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻を繰り返す生徒への指導を工夫する必要がある。</li> <li>・今未来手帳の活用を更に促したい。</li> <li>・ICTに関しては学習効果が高い利用方法を探る必要がある。また、学力の向上につながることを示す、客観的なデータを得る必要がある。</li> <li>・探究活動とキャリア形成を結びつける指導を研究し実践する必要がある。</li> <li>・言葉遣いは進路活動を考えると十分とは言えない。指導を強化していく必要がある。</li> <li>・18歳成人を見据え、内面的な成長をより促すため。卒業後の姿を強く意識させたい。</li> </ul>
		学習課題の提出を促し、未提出の生徒への指導を徹底することで、学習習慣の確立を図る。	A		
		今未来手帳を活用してスケジュール管理や学習状況確認等を行い、自己管理能力の伸長を図る。	B		
	基礎学力の向上とキャリアデザインの形成を図る。	ICTの活用やアクティブラーニングを推進し、魅力のある授業づくりに励むことで、生徒一人一人が積極的、主体的に学習する姿勢を育成し、基礎学力の向上を図る。	A		
		スタディサプリ等の学習コンテンツを利用して家庭学習や課外学習を推進し、上級学校への進学を希望している生徒の学力向上を図る。	B		
		生活デザイン科、普通科の特色を生かし、進路行事や課題研究、探究活動を通して、自らの進路や生き方を主体的に構想・設定する姿勢を育成する。	A		
	豊かな心を持った人間性のある生徒を育成し、思慮分別がある成人となるべき準備をする。	他者の言葉に耳を傾け、素直に話を聞く態度を育成し、他者への配慮や共感する力を養う。	A		
		挨拶を励行し、正しい言葉遣いができるように指導することで、高校生としてふさわしい振る舞いや、分別がある行動ができるようにする。	B		
		各学校行事への積極的な参加を促すことで、主体的・協働的に活動する姿勢を育成するとともに、集団への帰属意識や規範意識の確立を目指す。	A		
		18歳成人を見据え自己決定権を尊重し、校内外の活動に積極的に参加することを促すことで、責任感と社会に参加する姿勢を育成する。	B		
第 3 学年	成人としての姿勢・心構えの育成と基本的な生活習慣の維持に努める。	進路を見据え、TP0に合わせた挨拶の励行・敬語使用の徹底を図る。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考查前学習を実施したことにより、考查への取り組みはよかった。</li> <li>・進路指導部をはじめ、全職員の協力により、ほぼ全員の進路希望実現が出来た。しかし、進路決定後の遅刻欠席が増えたことが残念である。</li> </ul>
		保護者との連携を密にし、規則正しい良好な生活習慣の確立を図り、遅刻・欠席をさせないようにする。	B		
	確かな知識・技能を身に付け、進路の決定を図る。	授業の準備を徹底し、落ち着いた態度で授業を受けられるようにする。	B		
		考查前学習週間・勉強会等の学年の取組をさらに充実させ、社会人としての一般常識・基礎学力の向上・定着を図る。	A		
	人間性豊かな社会人の育成を図る。	進路指導部と連携し、学年が協力・連絡を密にして、生徒の希望進路を実現する。	A		
		卒業後を見据え、社会人としての自覚、公共心、マナー、他人への配慮の育成を図る。	B		
	各種行事を通して、多様な人々とつながり、考えを受け入れ、協働する力を養う。	B			

別紙様式 2 (高)

国語	基礎学力定着の徹底を図る。	漢字・語句の基礎的な力を培い、国語力の向上を図る。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットを活用した授業展開の工夫、学校図書館との連携、学習アプリの活用を通して、国語力のさらなる成長を図る。</li> <li>・タブレットの有効な活用方法について、教科内で研究・共有を促進する。</li> </ul>
		I C T機器の利用や、言語活動を通して、伝え合う力や思考力、想像力を伸ばす。	B		
		学校図書館と提携し、生徒の読書に対する意欲を喚起する。	B		
		古典の世界に親しませるため、画像や音声等を含む教材を利用し、多くの文章に触れさせる。	B		
	進路を意識して、必要な教材を授業に組み入れる。	問題集等を活用して国語に関する知識を増やし、適切に使うことができるようにする。	A		
		課外授業や個別指導、学習アプリを活用し、上級学校へ進学を希望する生徒に応じた指導を行う。	B		
地歴・公民	基礎学力の定着を図るとともに、生徒の学習意欲を高め、主体的な学習活動を促進する。	I C Tを積極的に活用し、生徒の実態に応じたわかりやすい授業を展開する。小テストを実施したり、ノートを定期的に提出させたりしながら理解度を確認し、基礎的な内容の確実な定着を図る。 成人年齢の 18 歳引き下げに合わせて、シティズンシップ教育や課題探究型の活動を充実させ、平和で民主的な国家及び社会の形成者を育成する。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・I C Tの活用について、さらに研鑽を重ね、授業に反映させる。それぞれの科目で、自ら課題を発見し、答えを追究していく姿勢を育む。</li> <li>・「歴史総合」について、教科内での意見交換に努める。</li> </ul>
		地域の歴史と日本史・世界史を結びつけた授業を行い、地域の歴史を多面的に理解した人材を育成する。	B		
数学	生徒の学習意欲を喚起し、個に応じた最適な指導をする。	重要な公式を確実に身に付け適用できるようにすることで、数学の有用性を認識させて学習意欲の喚起を促し、具体的な目標を定めて学習する姿勢を身に付けさせる。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績上位層から上級学校へ進学を目指す生徒を増やす工夫が必要である。</li> <li>・学習アプリについては、その効果を検証したうえで、活用法を研究する必要がある。</li> </ul>
		課外授業や個別指導、学習コンテンツ等を通して、上級学校へ進学を希望する生徒や数学を苦手と感じている生徒に応じた、個別最適な指導を行う。	B		
	基礎学力の定着を図る。	第 1 学年普通科では、学習習熟度に応じて 2 クラスを 3 分割にし、理解度の段階に応じた授業を展開する。	A		
		第 1、2 学年ではスタディサプリを積極的に活用する。3 学年においては問題集や課題プリント等を積極的に活用して家庭学習を促進し、理解度を高める。	B		
情報	知識・技能及び情報の分析・評価・判断力を育成する。	情報機器を操作する時間を定期的に設け、情報社会の変化に対応できる能力を高める。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報活用能力における個人差への対応を研究する必要がある。</li> <li>・情報モラルについては、学校全体で取り組むべき課題であり、生徒指導部や学年と連携しながら指導を図る。</li> </ul>
		アプリケーションソフトを積極的に活用し、情報を効果的に処理できる能力を身に付けさせる。	B		
	情報モラルに配慮する態度を身に付ける。	個人情報や著作権についての学習を通して、情報の扱い方を学ばせる。	A		
		I C Tに関わる学習を通して、情報社会において守るべき情報モラルについて考えさせる。	B		
理科	基礎学力の定着を図る。	小テスト等の機会を増やし、スモールステップを意識した指導を行う。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験、グループワーク、プレゼンテーション、探究的な要素を含んだ授業について、より多くの実施を目指したい。</li> </ul>
		学びあい活動等のグループワークやプレゼンテーション等の活動を通して、自らの考えを自らの言葉で表現できる力を養う。	A		
		電子黒板やタブレット端末等の I C T機材を活用し、双方向型の授業を行うほか、課題配信等を行うことで個別最適な学びを促進する。	A		

別紙様式 2 (高)

	観察・実験を通して、理科学的な探究活動を行う。	実験を通して理科の面白さを体験させ、興味・関心が湧くように指導する。	A		・学習アプリを用いた課題配信の機会を増やす。
		観察・実験の結果の分析、解釈、考察など、理科学的に探究する過程を通して、思考力・判断力・表現力を育てる。	B		
		実験器具の使い方や実験後の片付け等の指導を通して、実験操作の意味や流れについて自ら考え、主体的に行動する態度を育てる。	B		
	理科学的現象への興味と関心を高める。	自然科学としての理科を認識させ、歴史的意義や現代における役割及び環境問題などへ思考が及ぶように指導する。現代社会を生きる上で必要な学問であることを理解させる。	B		
保健体育	授業に臨むための基本的学習習慣の定着を図る。	着替え、用具等の準備を含め、迅速に行動し、時間を厳守するように指導する。	A	A	・学習形態を工夫しながら、主体的な学びに繋げられるような指導を研究する。 ・ICTの活用についてはWi-Fi環境の整備も必要であるが、活用法について検討し、より一層の活用を目指す。
		授業を通し礼儀やルールを守る態度の向上を図る(指定された服装、開始・終了の挨拶、言葉遣い等)。	A		
	十分な運動量を確保する。	生徒が十分な運動量を確保できる授業を展開する。	A		
	卒業後も主体的にスポーツや健康課題に取り組める能力の育成を図る。	主体的に活動し相互に教え合うことを通して、考える力や表現力、コミュニケーション能力の育成を図る。	B		
ICTを活用して、スポーツや健康課題に対して主体的に取り組む態度を養う。		B			
英語	基礎学力の向上を図ると共に、授業を通して発信力を養う。	単語の小テストやパフォーマンスを定期的実施し、効果的に評価していく。また、ノートやワークブックを定期的提出させ、学習内容の理解度を確認する。	A	A	・パフォーマンステストを実施した後、さらに効果的なフィードバックが必要である。 ・スタサブ for English の導入を研究したい。 ・ALTの活用をさらに増やしていく必要がある。クロスカリキュラムなどに活用し、ALTの特性に合わせた授業を展開できるようにしていきたい。
		第1学年は習熟度に応じて1クラスを2分割し、少人数によるきめ細かな指導を行う。	A		
		学習内容の定着のため、放課後の補習授業や課外授業を実施する。	A		
		クラスルーム・イングリッシュや音声教材をできるだけ多く使い、リスニング力の向上を目指す。	B		
	英語の授業の改善に努める。	生徒が主体的に学ぶことができる授業を展開できるようにICT機器を効果的に用いるなど、授業のデザインを教科全体で考え、実行していく。	B		
英検取得を促す。	生徒たちに検定に関しての情報を定期的に周知させ、積極的に検定を受けるように促す。また、英検対策課外を行い、過去問題やスタディサプリ for English を活用して、検定試験の対策を行う。	A			
家庭	基礎的・基本的な知識と技術を理解させ、実践的な能力や態度を身に付けさせる。	TTや分割履修などを活用し、生徒の実態にあった授業を工夫し展開する。	A	A	・分割履修の活用や課外・補習の継続に取り組み、個に応じた指導を推進する。 ・学びを深めるための教科等横断的な学習の実施にさらに努める。 ・コンクール入選のための指
		実験・実習などを通して各種知識・技術の基礎基本の定着を図る。また、必要に応じて課外や補講を実施することで実践的で専門性の高い能力を身に付けることができるように工夫する。	A		
	生徒の興味関心を考慮した授業の工夫をする。	生活デザイン科においては、コース制での授業や課題研究での合同授業など多彩な講座を展開することによって、教科内容の充実を図る。地域の施設との連携や外部の専門家	B		

別紙様式2 (高)

		による指導、コンクールへのチャレンジを通して、生徒の意欲・関心が高まるように指導の工夫をする。			導を工夫する。
		体験的な学習や教科横断的な学習を実施する。変化に即応できる生活者としての知恵を身に付け活用できるように指導を工夫する。	B		
	作品づくりと自己評価をすることで、学習への取り組みの意欲を高める。	自己評価と他者評価を行うことで、作品づくりの意欲を高め、完成させることで達成感を感じられるような指導の充実を図る。また、検定等の資格取得を目指し、自己研鑽に努める。	A		
芸術 (音楽)	音楽を愛する心情を育て、様々な表現方法を身に付ける。	多様な音楽活動を通して、生涯にわたって積極的に音楽活動に親しむ態度を育てる。	A	A	・我が国や諸外国の音楽文化について理解を深めるため、教科横断的な学習を取り入れる。
		歌唱・器楽の活動において、グループでの活動などを通し、音楽を作り上げる喜びを味わう。	A		
	多様な音楽文化への理解を深め、音楽に対する感性を磨く。	様々な分野の音楽を主体的に鑑賞し、感じたことを言語で表現し共有する。	B		
		日本の伝統的な音楽の演奏や鑑賞を通して、日本の伝統文化を尊重する態度を養う。	A		
芸術 (美術)	美術を愛好する心情を育て、創造的な表現と鑑賞の基礎的な能力を身に付ける。	生徒が自らに引きつけて考えを深められるような課題設定に努める。また、生徒一人一人が主題を生み出し、制作を通して個性を発揮できるよう、段階的な指導を行う。	B	B	・生徒が興味を持って取り組める題材を増やし、楽しく学習に取り組める工夫をする。 ・ICT機器を活用できる環境の整備のため、美術室へのwi-fi設置を求めたい。
		画材の基本的な使い方を習得させる。	A		
		原始時代から現代までの絵画・彫刻・デザイン・映像・漫画などを鑑賞し、美術文化の歴史や価値について理解を深める。ICT機器を活用して、芸術作品の見せ方や意見交換の方法を工夫し、効果的な鑑賞につなげる。	B		
事務部	予算管理の適正化を図る。	各校務分掌とのヒアリングを実施し、不要予算の削減と必要予算の配分を行い、効果的な予算執行に則した配分を図る。	B	B	・植栽等の剪定に関しては、適切な時期に計画どおり行うことができた。 ・引き続き、施設の安全と環境美化に取り組み、教育環境の整備に努めたい。
		水道料金については、毎日メーターを計測し、漏水の早期発見に努める。	A		
		電気料金については、デマンド監視装置及び教室の空調機器の集中制御機能の活用、LED照明の順次導入により、節電を行う。	B		
	施設の安全と環境美化に取り組む。	日常的な点検を実施し、危険箇所の発見及び簡易な修理・修繕が可能な場合は即時に施工することにより危険箇所の削減を図り、生徒・職員の安全な環境を保持する。	A		
		植栽等の管理計画を立て、適切な時期に処置を行うことで景観の美化を維持する。	A		
	施設設備の整備計画の見直しを行う。	現状の課題と長期的視点を考慮し、効果的な施設の整備計画の見直しを行う。	B		

※ 評価規準：評価段階 A：十分できた B：概ねできた C：やや不十分 D：不十分